

第11回甲子園塾 参加報告書

福島東高等学校野球部顧問 鈴木隆史

- 1 日 時 令和元年12月6日(金)～8日(日) 2泊3日
- 2 場 所 中沢佐伯記念野球会館
東大阪大柏原高校グラウンド
- 3 講 師 山 下 智 茂 氏 (元日本高野連技術振興委員長)
(甲子園塾塾長)
北 村 雅 敏 氏 (日本高野連審議委員長)
岡 村 栄 祐 氏 (太陽法律事務所弁護士)
- 4 特 別 講 師 永 田 裕 治 氏 (報徳学園高前監督)
(2019・U18野球日本代表監督)
長 尾 健 司 氏 (高松商業高監督)
東 堂 昌 治 氏 (山口県高野連理事長)
- 5 モデルチーム 東大阪大柏原高 野球部

6 講習日程

12月6日(金)

～13:00	集 合	
13:00～13:30	開 講 式	
13:30～14:15	座 学	【都道府県高野連の役割】
14:20～15:20	座 学	【指導者に求められる法的知識】
15:20～16:05	座 学	【指導者としての基本的な考え方①】
16:10～16:55	座 学	【指導者としての基本的な考え方②】
17:05～18:00	座 学	【部員とのコミュニケーションの図り方】
18:00～	夕 食	
19:00～20:20	班別討議	【新入部員の指導について】
20:20～21:00	座 学	【日本の球史】

12月7日(土)

7:00～	朝 食	
8:00～ 8:45	座 学	【部活動の役割と課題】
8:50～	移 動	(東大阪大柏原高へ)
9:30～11:30	実 技	【キャッチボール・バント】
11:30	昼 食	
12:15～14:00	実 技	【内野ノック・外野ノック・内外連携】
14:15～15:15	実 技	【ピッチング】
15:15～16:15	実 技	【バッティング】
16:15～	移 動	(中沢佐伯記念野球会館へ)
17:10～17:55	座 学	【不祥事の取扱いと防止】
18:10～19:45	班別討議	【体罰について】
19:45～	夕 食	

12月8日(日)

7:00～	朝 食	
8:00～	移 動	(東大阪大柏原高へ)
9:00～ 9:30	座 学	【野球用具の管理】
9:30～10:30	実 技	【走塁の基本】
10:40～12:00	実 技	【受講生によるノック】
12:15～	昼 食	
13:00～13:30	閉 講 式	
13:30	解 散	

1 **1日目 12月6日(金)**

(1) **開講式**

連盟代表挨拶・塾長挨拶・講師紹介・受講者自己紹介

(2) **座学 【都道府県連盟の役割】**

講師：東堂氏

- ・「高校野球200年構想」にもある野球の普及・振興については、都道府県高野連が主体となり、関係諸団体との連携のもと、各校顧問が協力して行っていくことが重要。

(3) **座学 【指導者に求められる法的知識】**

講師：岡村氏

- ・高校野球における重大事故（後遺障害の残るもの）は減少傾向にあるが依然として起こっており、体の部位としては、眼（44%）と歯（34%）が多い。
- ・指導者として安全管理（練習中の事故防止・ネットの補修等）を徹底することが重要。

(4) **座学 【指導者としての基本的な考え方①】**

講師：長尾氏

- ・「一人ひとりが、自律的に考え、行動し、仲間と助け合いながら、自ら学習、成長する集団」というモットーで組織づくりをしている。
- ・上級生が率先して練習の準備などを行い、下級生からあこがれやリスペクトをされるような環境づくりをしている。
- ・「価値ある答え」は「考えた答え」であり「正しい答え」ではない。
- ・自分（指導者・選手）が「勝ちたい」よりも、自分が「勝たせたい」、もっと言えば周りの人（選手・チームメイト・保護者・OB・地域住民）を「幸せにしたい」と思うことが大切である。
- ・モチベーション3.0（内発的動機づけ）を意識している。
- ・選手とのコミュニケーションにおいては、自分の伝えたいことを、相手に言わせるよう、質問を繰り返すなど工夫している。
- ・選手の成長や挑戦をただほめるだけでなく、どんな意識をしたらそうなった？なぜ成功した？という部分も大切にしている。

(5) **座学 【指導者としての基本的な考え方②】**

講師：永田氏

- ・部員がどんなに多くなっても、全員に同じ練習をさせ、チームとしての一体感を大切にしている。
- ・公式戦では怒らないが、怠慢プレーをしたときは本気で怒る。
- ・頑張っている選手には、上手でなくてもチャンスを与える。それも周りに分かりやすく。
- ・若い頃は自分の指導法に不安があり、こっそり強豪校の練習を偵察したこともあった。
- ・センスはあるが練習をきちんとやらない選手は、タイムリーは打つがタイムリーエラーをする。

(6) 座学 【部員とのコミュニケーションの図り方】

講師：山下氏・永田氏・長尾氏

○山下氏

- ・部員の家庭環境や家族構成まで把握するようにしている。

○永田氏

- ・部員数が多いと一日にあいさつだけで終わってしまう選手もいるが、なるべく全員とコミュニケーションを取るようにしている。
- ・JAPANではLINEを活用して部員とコミュニケーションを図ろうとしたが、海外でLINEを登録していない選手も多く、失敗に終わった。しかし、指導者も新しいコミュニケーションの方法を試していくことは大切なことである。

○長尾氏

- ・全体では個人を責めない。個別で指摘をする。
- ・アプリを使用したこともあるが失敗した。ノートを通じたコミュニケーションが一番良いと思う。

(7) 班別討議 【新入部員の指導について】

講師：山下氏・永田氏・長尾氏

- ◎約10名の3グループに分かれ、事前課題をもとに受講者で討議。

その後、講師の先生方からの助言をいただく形で進行。

○山下氏

- ・社会においても、上下関係はあるし、縦と横のつながりは大切。しかし、上級生から下級生に対する理不尽な指導がある場合は指導すべきである。
- ・新入生は走る姿を見る。走る姿が美しい選手は伸びる。
- ・その子に合ったフォームを見つけてあげるのが指導者の役目。

○永田氏

- ・各校の状況に合わせて新入生を指導して良いが、指導者として譲れない部分はしっかりと伝えておいた方が良い。

○長尾氏

- ・新入生も含めて部員には、「高松商野球部としての品格を持ちなさい」と常に言い続け、自分を律することができるようにしている。

(8) 座学 【日本の球史】

講師：古谷氏（日本高野連）

- ・米国でのベースボール発祥と日本への伝わり方
- ・全国中等学校野球選手権大会・全国選抜中等学校野球大会の創設について
- ・甲子園球場建設について
- ・学生野球憲章について

2 2日目 12月7日(土)

(1) 実技 【キャッチボール・バント】

講師：山下氏・永田氏・長尾氏

《キャッチボール》

○山下氏

- ・良い表情でボールを呼ばせる。
- ・体を開いて投げている選手は直す。

○永田氏

- ・常に体の軸を保って、速く強く正確に。

○長尾氏

- ・とにかく握り替えを速く。
- ・ボールを受ける際は近い距離でも相手が胸に投げてくるとは決めつけず、常に動ける状態で構えておく。

《バント》

○長尾氏

- ・足の位置はヒッティングと同じ位置に構え、外高めに視線とバットを置く。
- ・インパクトの位置と目が30cm程度の距離を保ち、後ろ足の股関節を上手く使う。
- ・右打者であれば、右手を固定し、左手で操作する。
- ・股関節と膝を使って打球の勢いを弱くする。

(2) 実技 【内野ノック・外野ノック・内外連携】

講師：山下氏・永田氏

○山下氏

- ・1cmにこだわってノックを打つ。
- ・目ですべての野手を見ておく。
- ・エラーをした原因を伝える。怒ってはいけない。

○永田氏

- ・内外連携では、ミス流さず、ミスの原因を選手同士で確認させる。

(3) 実技 【ピッチング】

講師：長尾氏

○長尾氏

- ・前足を踏み出した瞬間の腰のキレを重視させる。
- ・頭を残して前足を踏み出し、リリースでボールに最大限の力を伝えられるように意識させる。
- ・投手の球速の目安として、20mを山なりでなく（実際の投球と同じ軌道で）投げられたら120km/h、10m増えるごとに10km/hずつ増えるかたちで目安としている。つまり、150km/hを投げられる投手は50mを投げられる。

(4) 実技 【バッティング】

講師：永田氏・土井健大氏（東大阪大柏原高監督）

○永田氏

- ・ボール球に手を出さない、特に低めの変化球の見極めが大切。JAPANの大会の際には、試合がない日の練習場所が狭い場合もあったので、スポンジボールを持っていき、低めの変化球の見極めの練習をした。

○土井氏

- ・トップの位置はいつでも振り出せる位置。
- ・両目でボールを見させる。
- ・スイング軌道（ダウン・レベル・アッパー）は特に矯正していない。どのスイング軌道でも、へその前でヘッドが返るのは共通なので、それを意識させている。
- ・バッティング練習の際、マシンのボールは大体同じ軌道と速さで来るため、タイミングを遅らせるなどして、わざと苦しんで打つようにさせている。
- ・打撃はタイミングがとにかく大切なので、タイミングが上手くとれない選手は、『1・2・の一・3』でタイミングを取らせる。その時、『の一』をできるだけ長くするようにすると間が生まれてくる。
- ・後肘と後膝の使い方について、ストレートを打つ際には2つが同時に動き、変化球の際には後膝が先に動いて後肘が残っていれば対応できることが多い。

(5) 座学 【不祥事の取扱いと防止】

講師：北村氏

- ・不祥事が生じた際には速やかな報告を。包み隠さず報告することが大切。
- ・部員の不祥事については、SNSなどで発生した事案がここ数年増加。

(6) 班別討議 【体罰について】

講師：山下氏・永田氏・長尾氏・東堂氏・北村氏

◎約14名の2グループに分かれ、事前課題をもとに受講者で討議。

その後、講師の先生方からの助言をいただく形で進行。

○山下氏

- ・上から目線でなく対等な立場で接することが大切。

○永田氏

- ・体罰は許されないが、事なかれ主義は絶対良くない。ダメなものはダメと伝えることが大切。

○東堂氏

- ・指導者が言葉の力を養うこと、他の指導者のマネから入るのも良い。

○北村氏

- ・プレーにおけるミスは暴言暴力では直せない。練習するしかない。

3 **3日目 12月8日(日)**

(1) **座学 【野球用具の管理】**

講師：山下氏

- ・北海道や東北のチームは道具の管理が良い。
- ・甲子園の試合前、両チームの道具の管理を見て勝敗を予想すると9割は当たる。
- ・練習試合に行くと、グラウンド、部室、トイレを見る。これらがきれいなチームは強いし、強くなる。

(2) **実技 【走塁の基本】**

講師：長尾氏

- ・すべて自分で判断させる。
- ・スチール時のスタートが遅れたと打者が認識したときにはヒッティングさせる。そのため、スチールのサインだとしても打者のインパクトを必ず見させる。
- ・走塁の判断練習は、ノックよりも、なるべく打者が打った打球で練習させる。

4 **全体を通して**

講師の先生方の指導者としての歴史や指導法に関してはそれぞれの特徴があったが、共通していたのは、指導者人生の始めから順風満帆だったのではなく、若い頃は数多くの失敗を重ね、その中でも「選手を成長させたい」「甲子園に行かせたい」という熱い情熱を持ち続けてきたという点であった。

また、選手をやる気にさせる言葉かけやコミュニケーションの力は、非常に参考になる部分が多くあった。

今回に研修で得られたことを、今後の指導に最大限に生かしていきたい。

5 写真【研修の様子】



